



金融労連・東京地連・関信支部共催の旗ひらき

金融労連が旗ひらき

1月10日東京で「金融労連2013年旗ひらき」が金融労連・同東京地連と同関信支部との共催で開催され49名が集い、滋賀従組からは中島委員長（金融労連副委員長）が参加しました。旗開きには、全労連・渡邊事務局長、日本共産党・佐々木衆議院議員、東京法律事務所・金井弁護士、東京地評・伊藤議長のみなさんを迎えて迎えました。

代表して東京地連小林委員長が「今年の金融職場はますます厳しくなる。経営者の暴走を止められるのは労働組合しかない。経営ともキチンと話をしていきたい」と挨拶がありました。つづいて、伊藤東京地評議長の乾杯の首領で始まった旗ひらきはにぎやかに進行し、新しい年の活動の決意を語り合いました。最後に関信支部の吉田支部長から閉会のあいさつと団結ガンバロウ三唱で閉会しました。



2013年1月



〒520-0041
滋賀県大津市坪町1-38
滋賀銀行従業員組合
TEL 077-521-2775
FAX 077-525-5232
http://www.biwa.ne.jp/ffs/
e-mail: ffs@biwa.ne.jp

労働者の実質賃金引き上げ 内需拡大こそ日本経済再生の鍵

滋賀銀行従業員組合 副執行委員長 車谷 燕



2013年が激動の中でスタートしました。昨年12月16日に投票の衆議院選挙は、民主党政権の失政が国民の大きな批判を呼び、自民・公明両党の320を超える議席獲得となり自公政権が復活する結果となりました。しかし、投票率は戦後最低を記録し、得票と議席の異常な不均衡を見れば国民の思いと異なる結果であったことは明らかです。

中小企業金融円滑化促進の「恒久法」制定を！

また、百年に一度の危機と言われた4年前のリーマン・ショックは、今も日本経済に色濃く陰を落としており、中小企業をめぐる経済環境も、超円高やデフレ、電気料金の引き上げ、売上げ不振などで厳しい状況にあります。そのような中で、中小企業の資金繰り改善に大きな役割を果たしてきた中小企業金融円滑化法が3月に期限を迎えます。私たちは法律の再々延長を求めています。地域金融や中小企業金融の円滑化を促進するための恒久的な新法の制定を強く求めるものです。

震災復興を最優先に！

東日本大震災から2年目を迎えようとしています。いまだに約32万人の方々もが苦しむ避難生活を強いられています。政府は復興に全力を尽くすと言ったにもかかわらず、被災地への帰還はまだまだほど遠く、原発事故の除染、町創り、湾岸整備などの復興作業が遅れています。私たちは全ての課題に優先して震災復興政策の実現を期待するものです。

安全なエネルギー施策への転換を！

この事故により大多数の日本国民は、原発に代わる自然エネルギー等への転換を期待していますが、国民の生命や安全は二の次であるような政策が、新政権に引き継がれようとしています。新政権は、国民多数の「原発ゼロ」の声に逆らって、原発再稼働の推進を宣言し、新增設の推進を公言しています。まさに、原発重視型とも捉えられる財界言いなりの経済第一主義の考え方です。

日本国民の命と平和への願いは、7月に大江健三郎さんら有識者9人の呼びかけで「さよなら原発10万人集会」として東京で開催されました。私たち従業員組

合も代表を送りましたが、この呼びかけは全国各地に広がり最終的には17万人の大集会となり成功しました。また、百年に一度の危機と言われた4年前のリーマン・ショックは、今も日本経済に色濃く陰を落としており、中小企業をめぐる経済環境も、超円高やデフレ、電気料金の引き上げ、売上げ不振などで厳しい状況にあります。そのような中で、中小企業の資金繰り改善に大きな役割を果たしてきた中小企業金融円滑化法が3月に期限を迎えます。私たちは法律の再々延長を求めています。地域金融や中小企業金融の円滑化を促進するための恒久的な新法の制定を強く求めるものです。

大津地域労連が定期大会

1月16日、大津市内に於いて大津地域労連の第16回定期大会が開催されました。大会には9単組から21名が参加され議論がされました。当単組から車谷副委員長が代議員として参加され、以下の報告が寄せられました。

定期大会では2012年度の活動総括(報告)が行われ、滋賀高教組の報告では「県が高校再編に新校建設として90億円の莫大な資金を投入し、統廃合を促進する」ということに対し、高教組は断固これを反対し、それよりも35人学級要求を行い、生徒一人一人のゆきとどいた教育を」と主張されています。



報告を聞き、今、問題となつているイジメや体罰問題を真剣に考える時期であり、新校建設に莫大な資金を使うのではなく、生徒一人一人の命、個性を伸ばす教育(35人学級)に重点を置く必要がある」と思いました。

また、県職員組合の活動では、組合員同志の交流を更に深める催し物として、独身者交流会や昼休みミニ

講座「食べることで琵琶湖を守る」、「リニア新幹線と」等を常時行い、職員間の絆をより一層、強めておられることに感銘しました。現在も、多くの非正規労働者や派遣労働者が職場を追われています。正規労働者に対しても、出向・退職の強要や解雇など雇用状況は電機産業を中心に一段と厳しい状況です。

従業員組合・さざなみネット 年金者部会が合同旗びらき

1月22日大津市内に於いて従業員組合・さざなみネット・年金者部会の三者合同の2013年旗びらきが開催されました。澤井従組書記長の司会ですすめられました。

はじめに中島委員長は年頭の祝詞とアルジェリアのテロ被害者に対する哀悼の意が表され、次のような挨拶がされました。「昨年12月の総選挙で議席の3分の2以上の大勝で自公政権が誕生しましたが、投票率は前回よりも低く国民の信任を得たという結果ではありません。憲法改悪や増税、TPP参加など安倍内閣が進めようとしている政策によりつくられる世の中は、私たちが考える理想の世の中とは大きく異なつ

職場の声

若者の退職に不安

また若い男性が退職されました。理由は分からないのですが最近少し多いように思います。不況で良い就職先もない時期に退職をされるのであり色々事情があるとは思いますが、やはり辞めずに働き続けて欲しいと思います。私たちの職場に若い方に目を向ける余裕がなくなってきたのかと不安になります。

定期大会では2013年の運動方針として次の5項目を全員一致で可決しました。

1. 労働者派遣法の抜本改正を求め、働くルールの確立と労働条件改善を求める。
2. 消費税増税実施に反対し、命を守る医療・社会保障の改善・充実を目指す。
3. 自治体への要求運動と地域住民・市民団体との協同推進。
4. 組織拡大・強化をするため、各々相互に交流を行い、加盟労組のみならず、

ことが目標だと認識しています。(後略)と述べ、結びに「大事な新しい年になるので支援・協力を」と訴え新年の抱負が語られました。

次に年金者部会世話人の三橋俊夫氏が乾杯の音頭をとり、参加者が新しい年に対する決意や展望などが語られ和やかな中にもそれぞれの組織の役割と運動の発展を再確認する交流の場となりました。



適正な人員配置で 年休取得の保障を

アンケートなどを通して寄せられる職場の声にはかなり深刻なものが多く、年次休暇をめぐって「年休の許可が出ない」「取れる人と取れない人が決まっている」などがある。

最近、さざなみネット(金融ユニオン滋賀分会)の機関紙を読み胸が痛んだ。「母が手術をしなればならなくなりました。が、職場で連休を取る人が

地域未組織労働者の組織化へも働きかけ。

5. 憲法と平和を更に守っていくなければならない。なお、大津地域労連の役員体制は「前年度の役員」

赤ひげ

今年の前進座初春特別公演は「雪祭五人三番叟」と「赤ひげ」であった。近所の方と一緒に南座に行き、良い席で素晴らしい舞台を堪能させていただいた。

公演された「赤ひげ」は山本周五郎が1958年に書いた時代小説「赤ひげ診療譚」を土台にした2幕の作品である。

長崎でオランダ医学を学び、江戸に戻ってきた若き医師、保本登には幕府お目見医の席が用意されているはずだった。ところが、貧民診療院である小石川養生所に呼び出され、医長の赤ひげこと新出去定に、有無を言わず住み込みの見習医を命じられる。

登は、己のおごりに気づかず、自暴自棄となり、禁制の酒に手を出すなど、赤ひげへの反発を繰り返した。去定はしばしば登を連れて貧乏長屋や岡場所の患者を回診し、大名の贅沢病の治療にも出向いて大枚の薬札を要求、これを養生所の乏しい薬種代、賄い費や貧民の救済にあてた。極貧の人々が暮らすむじな長屋に

などがあり、休暇が取れず、手術の時期がずれてしまいました。母は結局手術後亡くなつてしまいました。私としては予定通り手術をさせてやれなかったことを、いくら悔やんでも悔やみ切れません。

何を言われても、思い切つて休むことができなかったことなど、思い出して涙ぐんでしまう日々です。職場では人がどんどん減っています。私のような人が出ないように、人を増やして欲しいです。」

が再選され議長に大津赤十字病院労働組合の浜田美子氏を選出しました。当単組の車谷氏は会計監査として留任します。

労働の職人佐八が今際の際に告白した亡き女房おなかの死の真実。そのひっそりとつらめかれた愛の美しさ悲しさは、登のかたくなな心をつき動かす。

みずからの医学を「人間の尊厳」と「生命力」に賭ける新出去定とともに、医療にとどまらず暮らし万般にわたって、人びとに献身する保本登・・・

安本登の成長を感動的に見せながら、赤ひげ新出去定の為政者に向けられた怒りが強烈であった。「先ずやらなければならぬことは、貧困と無知に対するたかいだ、貧困と無知に勝つことで医学の不足を補うしかない、それは政治の問題と云うだろう、誰でもそう云って済ましている、だがこれまでかつて政治が貧困や無知に対して何かしたことがあるか」と。

今も変わらない医療や福祉の貧困を見ると、山本周五郎氏の先見性への感嘆と同時に、この国の進歩のなさを憂う。(丁)

